

秋の物流施設見学会を開催

～テーマは東北復興視察団～

(社)日本物流団体連合会は、平成 23 年度秋の物流施設見学会を仙台地区にて開催した。

本年度は 3 月に発生した東日本大震災を鑑み、震災から半年が経過した物流施設を訪問し、復興に力を尽くされている方や緊急輸送に携わった方のお話を伺い、広域災害に対応し得る物流システムの構築について考える試みとした。

当日朝、会員 26 名が仙台駅に集合し、バスで最初の目的地塩竈港運送(株)殿に向かった。佐川常務の案内で、震災当日が竣工式となったため被災した新倉庫と、甚大な被害を受けた仙台港コンテナターミナルを見学した。新倉庫は震災後いち早く復旧して援助物資の保管に活躍し、コンテナターミナルは関係者の懸命な努力により、見学日当日に、震災後初の外航船(韓国向)が出港するところであった。

次に仙台臨海鉄道(株)殿の仙台港駅を訪問し、日本貨物鉄道(株)の真貝東北支社長と仙台臨海鉄道(株)の横田社長より、本年 11 月の営業再開に向け準備が進む駅構内の様子と震災当時の状況について説明を頂いた。

昼食をはさんで、ヤマト運輸(株)殿仙台主管支店にて田原東北支社長と副島主管支店長より、ヤマト運輸(株)殿が携わった「救援物資輸送協力隊」について説明を頂いた。

参加した会員は、説明を聞いて熱心にメモを取ったり質問を行ってあらためて震災のダメージの大きさを感じ、関係者が力強く復興の道を歩む姿に感動していた。

以上

